第２２号

東稲ニュース

早稲田大学東久留米稲門会

平成１７年５月１０日発行
発行責任者　帆角　信美
編集責任者　比護　喜一郎
http://homepage2.nifty.com/35292/

会の告知板

5月15日(日) 第12回ウォーキングを楽しむ会 ― 横浜みなとみらい～山手西洋館
（詳細既配案内書参照）

22日(日)第１０回　映画鑑賞会　上映作品　「旅情(Summertime)」
キャサリン・ヘップバーン、ロッサノ・ブラッツィ出演、デヴィッド・リーン監督。
水の都ベネチアに咲き、そして散るロマンス。1955年作品。
14:00　開演　入場無料　市民プラザホール　（詳細既配案内書参照）

28日(土)　春季六大学野球早慶戦観戦会　（詳細既配案内書参照）

6月　5日(日)　第16回講演会
演題　郷土民族行事「講」について　講師　野崎市郎氏(元市郷土研究会会長)
15:00開演　市中央公民館2F　第1.2集会学習室　（詳細既配案内書参照）

[部会スケジュール]

書道部会　例会毎月第２日曜日　１３：３０～１６：３０　中央公民館２Ｆ

太極拳部会　毎週土曜日　１０：００～１２：００　成美教育文化会館１Ｆ

俳句部会　５月22日(日)　13:30～17:00　兼題：「蟷螂」　中央公民館２Ｆ
７月18日、９月４日、10月16～17日（吟行）、11月23日、12月23日（兼忘年会）

囲碁部会　毎月第４日曜日　１３：００～16：30　成美教育文化会館３Ｆ和室

グルメ部会　第８回グルメ探訪―小さな店で昼の本格中華を味わう会
６月２５日(土)　１３：００～１５：００　石神井町　中国料理「春秋園」
集合　西武池袋線・石神井公園駅南口改札口　０：４０（詳細添付案内書参照）

郷土研究会　東久留米市重要文化財　南沢獅子舞見学会　（日時は追ってご案内）

ゴルフ部会　６月１７日(金)　東久留米三田会対抗戦　太平洋クラブアソシエイツ江南コース
詳細、太田(晴)さん（℡６４－０１９２）、又は平山さん（℡７３－３２８９）にお問い合わせ下さい。

新年度を迎えて

会長　帆角　信美

私は、４月１０日（日）午後２時から成美教育文化会館で開かれた第１１回定時総会において会長として再任されました。これから２年間、再任および新任された役員の方々とともに会の運営に携わってまいります。会員の皆様のご支援とご協力を心からお願い致します。

時間が経つのは早いもので、私が前会長の高橋さんの後を引き継いでから１年が経ちました。引き継いだ年が当会の創立１０周年にあたる年でしたので、役員や会員の皆様のお

力添えを得て、昨年１１月２１日の日曜日に成美会館で「早稲田大学グリークラブ演奏会」を開催し、盛況のうちに終えることができました。そして、今年は創立１１年目です。これを機に当会の存立の原点に立ち戻って考えて、当会の活動をさらに一歩も二歩も進めたいと考えています。

この当会の原点は当会の規約第２条に「本会は、会員相互の親睦および啓発をはかるとともに、早稲田大学および東久留米市の発展に寄与することを目的とする」と書いてありますとおり、

１つ、会員相互の親睦をはかること
２つ、早稲田大学の発展に寄与すること
３つ、東久留米市の発展に寄与すること

の３点に集約されます。当会は創立当初から３つの原点を軸に据えて１０年間活動してきましたし、これからも３つの原点が変わるわけではありません。今後も、３つの原点から出発した諸活動にさらに彩りを加え、会員相互の親睦を主軸に置いた活動をさらに一層活発に展開してまいります。

今回の定時総会では、定例の議案のほかに、規約の一部改正が諮られ、「準会員の対象を拡大すること」、「名誉会長および顧問制度を廃止すること」が決まりました。このほか、役員会では「副会長を６名から２名にすること」、「役員会を隔月開催から毎月開催にすること」などが決まり、組織のシンプル化と役員会のさらなる活性化が実現しました。

役員一同これからも会員の皆様のご要望やご意見をよく承って、会員の皆様とともに考え、行動する形で会の運営に取り組んでまいります。１つのことを実現するには時間がかかりましょうし、動きも時に右や左に揺れたり、時には後に戻ったりとなかなか真っ直ぐに進まずに、皆様からお叱りを受ける場面も出てくるでしょうが、役員一同が徐々にながらも前には進もうと懸命に努めているんだとご理解をいただき、これからも従前同様、暖かいご支援とご協力を下さるようお願い申し上げます。

なお、今回の定時総会で決まった詳しい事柄につきましては、６月に発行する「年次報告書」に掲載しますので、これをご覧になって下さい。

会の行事

平成 17 年東久留米稲門会新年会

新春の１月 15 日(日)50 余名の参加者をえて、恒例の新年会を市内東本町成美教育文化会館グリーンホールにて開催。新春を寿ぎ、会と会員の弥栄かを祈念した。

役員会

２月６日、３月 21 日、４月２日役員会を開催し、規約改正、役員異動、決算・予算/事業計画の策定、17 年度総会次第など取り決めた。(詳細６月発行の「杜の西北」１１号に掲載)
５月７日には各部会長にも出席願い（於　浜波)、新体制の第１回役員会を発足させ、4 月 10 日総会決議事項の確認、新役員の紹介、役員相互の結束を図った。

平成17年度東久留米稲門会総会

満開の桜が散り始めた４月１０日（日）。午後２時から東久留米市内の成美教育文化会館で、高橋哲男幹事の司会のもと、まず恒例の文化講演会が始まった。

講師は村岡洋一・早稲田大学副総長、演題は「大学からの起業～夢かまぼろしか～」。講演に引き続いて、定時総会が開かれ、議案はすべて異議なく承認された。

後、村岡洋一副総長から来賓を代表して祝賀の挨拶を頂戴し、桜井直子募金担当課長に１２５周年記念事業募金の現状の説明を受けて、定時総会は滞りなく全式次第を終了した。続いて３階に場所を移して懇親の宴が、東村山稲門会の山下邦康会長、東久留米三田会の高橋是行会長の挨拶の後、安宅武一初代会長の乾杯の発声で賑々しく開宴された。

ベランダから見下ろせる満開の桜が華やかな彩を添え、談笑の渦は一層拡がり時間はあっという間に過ぎ去った。

８時過ぎ、大矢真弘幹事（早大応援部ＯＢ）の指揮のもと全員肩を組んで、まず慶応応援歌「若き血」を歌って東久留米三田会にエールを贈り、最後に早稲田大学校歌を高らかに歌って、２時間余にわたる懇親会は閉幕となった。

第１０回「ウォーキングを楽しむ集い」―　東京都庁と明治神宮初詣

平成１６年１月２３日（日）曇天、極寒。私は、家内と初参加でした。十数人位の参加者かと思いきや二十数名、とても賑やかな会ですね。世話人の土屋さん、久家さんが実踏されていることが良く分かるような行程で、何一つ無理のない楽しいウォーキングでした。

当日は大寒間もないこともあり厳しい寒さでしたが、東久留米駅に集まった皆さんは、元気で明るく、集合場所は其処だけ春のような明るさでした。

最初に訪れた都庁は、休日という事もあり予定の議事堂は見られませんでしたが、展望台からは都内全域を見渡す事ができ、素晴らしいパノラマでした。次に明治神宮に初詣。還暦を過ぎた人も多いことでもあり、皆同じようなことを祈願した事と思います「健康第一、家内安全」。丁度、明治神宮内で結婚式があり、白無垢の花嫁さんが目の前を通り、心の中で「オメデトウ」と言っていました。我々夫婦も明治記念館で式を挙げたこともあり、四十年前のことを懐かしく思い出していました。

最後は新宿御苑。何時もの入口とは反対の「千駄ヶ谷門」から入った為、御苑の広さや、池の大きさに驚きました。園の中には珍しいペーパーホワイトのスイセンとい

う真っ白なスイセンが咲いていました。また一本だけ寒緋桜が満開で、皆で歓声を挙げ、その前で写真撮影。そのあと、ドーム型の温室へ。南国の植物、世界の珍しい植物もたくさんあり、草花大好きな女性の皆さんは興味津々のご様子でした。温室の見学が終わる頃丁度昼食時間。外でおにぎりやお弁当を食べるには余りにも寒いので、レストハウスで食事。帰途、仕上げの会も計画されているようでしたが、昼食を取りながら男性軍中心に小さな酒盛りもあり、和気藹々の昼食でした。初参加にもかかわらず、皆さんのお気遣いにより楽しい一日を過ごす事が出来、家内共々感謝しております。特別な用事のない限り、今後とも参加させて頂きたく、宜しくお願い致します。

（北野直衛・博子記）

第９回第映画鑑賞会

２月 12 日(土)145 名のオールド映画ファンが市民プラザホールに集い「ガス燈」を堪能した。
回を追うごとに参加者が増え、立ち見の人たちも出た。上映会場や上映方法に改善、工夫が今後の課題となった。

大学･校友会の行事

西東京稲門会/東久留米三田会定時総会開催

４月１７日（日）成美教育文化会館で東久留米三田会の第３回定時総会が開催され、当会から、帆角会長、菱山・市川副会長、森田幹事の４名が臨席。

５月８日(日)、早稲田大学東伏見教場で開催された西東京稲門会総会には、井坂・河村両幹事が出席。相互の交流を深めた。

部会便り

ゴルフ部会

３月 25 日（金）、春の訪れを告げる奥武蔵の鶴ヶ島カントリークラブで、春季恒例のゴルフ会が開催された。シーズン幕開けのためか、参加者（９名）/スコア共にちょっと寂し

かったが、そこは愉快な会員の集い、「鮮乃庄」での最終ホールを含めて全19番ホールを心ゆくまで楽しんだ。

太極拳部会

４月16日（土）昨年と同じく、稲荷山公園広場で満開の桜樹を観賞し、芝生一面に桜花が降りしきる中、爽やかに太極拳を楽しんだ。午餐後、童心に戻って自作の紙飛行機で飛距離を競い合い、急転墜落などあって爆笑の渦が湧いた。（参加者２０名）

（部会長　船尾和三記）

俳句部会

創部１１年目を迎えた当会は、本年より年１０回の句会を持つこととなった（従来は年６～８回）。今年、既に４回の句会を開催し、先の４回目（通算６４回）は早稲田大学界隈吟行と趣向した。以下は前４回の高得点句（３点句以上）。

1月29日（土）第1回以降例会　中央公民館第5集会学習室

兼題　「家禽」と当季自由句　席題　「水仙」

図書館にまどろむ人や日脚伸ぶ	三田　三（畔巣）
水仙や伊豆七島の見えかくれ	太田蔵之助（千雪）
小刻みに鳩の小頚や春隣	桜庭　明
つかの間の童ごころや雪まろげ	杉本　達夫
おづおづと狭庭に漁る寒雀	比護喜一郎

2月20日（日）　第62回例会　中央公民館第3集会学習室

兼題　「土筆」と当季自由句　　席題　「恋猫（猫の恋）」

消え残る夜学のあかり猫の恋	杉本　達夫
食べてけと海女がすすめる若布汁	太田　蔵之助(千雪)
土筆摘む母を離れて赤い靴	〃
屈みこみ摘まずに愛でし土筆かな	三田　三（畔巣）

3月20日（日）第63回例会

兼題　「山笑ふ」と当季自由句　席題　「水温む」

掌(て)に乗せて切る絹豆腐水温む	神田　尚計
青墨(あおすみ)の淡きにじみや春闌(た)ける	〃
泥んこの吾子の手足や水温む	川島　知子
バス停へ急ぎゆく人春の服	坂本信太郎
濡縁に仔猫の欠伸山笑ふ	比護喜一郎
浜で買う若布たっぷり手秤りに	太田蔵之助（千雪）
馬遊ぶ牧場を抱いて山笑ふ	神田　尚計
響きたる青梅太鼓や山笑ふ	松田　博雄

4月30日（土）第64回句会　早稲田界隈吟行―大隈会館「楠亭」

樫若葉したたるばかり水稲荷	三田　三（畔巣）
裏通り古書店の香や四月尽	神田　尚計
水稲荷桜蕊(しべ)寄せ手水汲む	安宅　武一
春愁や街角(かど)の帽子屋古本屋	比護喜一郎

法書肆の変わらぬ店主春帽子　馬場　清彦
春昼や吾が青春の跡古ベンチ　比護喜一郎
キャンパスの乙女かがやき夏来たる　大久保泰司
緑立つ甘泉園の池静か　本間　信一

囲碁部会

去る3月31日の実行委員会で、5月22日（日）午前9時30分より市ヶ谷日本棋院にて第5回オール早稲田(首都圏)の開催が正式に決まった。従来と異なる点は、例年9月末の開催を5月に繰り上げたこと、参加チーム数が4チーム増加したこと（計40チーム）、級位者チームを導入したこと等々である。当部会でも2チーム、補欠を含め12名の参加を決めており、粛々と準備を進めている。本大会が、当部会の例会日に当るため、1週間繰り上げて、5月15日に臨時例会日をもうけ、時計使用対局の練習を行う予定でいる。部員各位の積極的参加を期待しています。

今回の特記事項は、新規会員が1名あったこと、従来より後進の指導をお願いしていた中道幸雄氏（29年商卒、所沢在住、日本棋院普及指導員）が、正式に東久留米稲門会の会員になられたことである。（部会長　辰己徳蔵記）

女性サークル

２００５年度第１回例会を４月２５日(月)、市民プラザにて開催しました。出席者８名、いろいろな企画を出してもらい今年度の活動予定を決めました。６月の例会では文京区の鳩山邸を訪ねて、バラを観賞した後、江戸川公園まで足を延ばすことになりました。女性会員の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。（部会長　棚野愛子記）

書道部会

当部員福田稔さんが所属する游筆倶楽部より、同倶楽部第２回展覧会に作品出展依頼があり、当部会として一人1～3点出品することにした。展覧会は、5/30～6/2、久里浜駅前湘南信金ギャラリーで開催。5/30（月）、本展覧会作品鑑賞ツアーが企画されている。

第１１回東久留米稲門会文化講演会－講演要約

４月１０日（日）成美教育文化会館で、第１１回定時総会に先立って恒例の文化講演会が開催された。講師は早稲田大学副総長兼理工学術院教授で、現在、２１世紀ＣＯＥプログラム「プロダクティブＩＣＴアカデミープログラム」の拠点リーダーとして活躍中の村岡洋一氏が講師になって「大学からの起業～夢かまぼろしか～」という大きなテーマについて、約７０名の会員、一般市民を前に、大学側がどういう目的をもってベンチャーを起こそうとしているかを簡潔に１時間ほどお話いただいた。

「大学からの起業～夢かまぼろしか～」

村岡洋一（早稲田大学副総長・理工学術院教授）

大学の使命とは一体何かというと、簡単に言えば、今いる学生にどれだけいいことができるかということだ。学生が自分の将来をいろいろな観点から試してみるために学生にいろいろな機会を与える。その機会とは、勉強、研究、スポーツまたは仲間作りなどたくさんある。学生はその中からどれかを選び、それを試してみる。失敗してもそれがいい経験になる。その１つの機会がベンチャーだと思っている。

では、何で大学は研究をやるかというと、研究が楽しいからだ。私はそう思っているし、おそらくこれは正しいはずだ。ただ、大学は砂漠の中にあるわけではなく、社会の中で存在している。従って、大学は研究の成果を社会に役立つものにしなくてはならないし、世間もそれを願っている。早稲田の場合、大学が取得した特許は約４００ある。その実施料は年間約２０００万円だ。また、大学発のベンチャーの数は今日時点で約７０あり、この数は早稲田が一番多いといわれている。

研究には費用がかかるが、早稲田の場合、学生が納付した授業料は全額学生に還元することにしているため、この研究費は国や企業など外部から獲得している。その額は年間約６０億円だ。研究費の大半は理工系の研究に使われるが、現在理工系の教員が約２００名だから、１人あたり平均すると約３０００万円だ。教員はこれらの費用を効率的に使っていい研究をやりたいし、大学側もそうなってほしいと願っている。このためには教員や学生に刺激を与える必要があり、その１つの刺激策がベンチャーだ。また、オール早稲田のような均一の組織は良くないので、他の大学や他の組織から客員教授という形で入ってもらって、違った文化や考え方などに接してもらうようにしている。今では、客員教授は約５００名にもなっている。

ベンチャーはそう甘いものではない。特にいい研究テーマは大学の研究所ではなく、企業の現場にあることを学生には理解してもらいたい。我々教員にとっても企業と一緒にやることによっていい研究テーマに出遭うものだ。我々教員は大学の研究所に閉じこもってばかりいないで、俗にいう“死の谷”を乗り越えていかねばならない。そうしないといい研究テーマには巡り合えない。

早稲田は学生ベンチャーの育成のため施設やノウハウを提供したりして、いろいろな形の支援に行っている。学生も自ら作り運営する“ザイヤドットコム”でベンチャーに関する情報交換をしている。また、ベンチャーを成功させた学生や卒業生をみると、当り前のことだが、学生時代に勉強をきちんとやり、技術をきちんと身につけている。

最後に私がベンチャーに関係してみてわかったことは、米国と比べて日本は頭のいい人が多過ぎることだ。そのため、いいアイデアや提案もこの関門を通り過ぎた時には丸々に摩滅した石に変わってしまう。ベンチャーを数多く育てるためには、若い人からのアイデアや提案については最初からＮＯ！といわないことが大切だ。私は学生からの提案には決してＮＯ！と言わないようにしている。皆さんも是非そういう姿勢で臨んでもらいたいと思っている。

＜会員リレーエッセイ＞　　***～噴水広場～***

「男の純情」

榎本　隆司

（早大名誉教授、市教育委員）

「金もいらなきゃ名もいらぬ」という歌の文句を、おのが人生訓にと思った時期がある。貧乏学生の痩我慢か、あるいは多少気負った感傷のゆえからだったか。しかし、純情な、真剣な思いに出ていたことはたしかだ。なにしろ、母親から「お金のことなど口にしてはいけない」と仕付けられた世代である。だから、昭和二十五年、研修旅行の奈良の安宿で同宿の高校生と懇談した時、東京での大学生活にどのくらい金が必要か、しっかりソロバン勘定をしているのにびっくりし、大いに感心したりした。

ところが最近、話題の何とかエモンさんが、金も地位も名誉もいらないと語っているのを聞

いて、久々にまたびっくりした。「そうでしょ。もう何も要らないんですよ。みんな手にしてしまったんだから。」と仰言ったのである。金については言うまでもない。地位は社長、そして名誉は、こうやって有名になったのだし、と彼はそういう意味のことをはっきり記者たちに言った。人生の目的は、とまで言ったかどうかはともかく、「世間的に言えばそうでしょう。それを僕は、もうみんな得ちゃったんですよ。」 ー そんな口吻だった。マネーゲームだ、金儲けだけなのだ、と見られることへの苛立ちから滑った口かもしれないが、じゃあエモンさんはこれから何を求めて生き

るのか、あとではアメリカ行きを知って、宇宙の旅くらいなのかなと思ったりもしたが、「もう何も要らない」のだと言い切った時には、へえー、たいしたものだ、と一瞬思い、そうかね、と首をかしげ、そして、あまり愉快でない反撥を覚えた。心の冷える感じにさえなった。人生、金・地位・名誉だけか、と。

歌は、「愛の古巣へ帰ろうよ」と結ばれていた。お古い純情は当世向きではないかもしれない。いや、「純愛映画」が大受けだと言うから、案外、金・物社会の非情に気づいて美しい心の通いにあくがれはじめているのだろうか。だとしたら、それはそれで希望の灯につながる結構なことなのだが、しかもいま、そうした現象をも含めて、心の、自由な精神の在り様を縛る、悪しき精神教育への傾斜が、少なからず危惧されるのである。

都庁での「連絡会」とやらに出て驚いた。開会二分前、「間もなく教育委員が登壇いたします」のアナウンスで拍手が湧いた。あらかじめ、適当に出てきて座っていればいいのに、と思ったが、拍手に気をよくしてのことか、こもごも、倫理教育・管理強化を力説した。あの、国旗・国歌問題で忠誠を訴え、逆に天皇から「強制」でないようにとたしなめられた棋界のオエライさんも、一対一で校長と飲み本音を引き出す要を、得々と語っていた。いささかのためらいもない、教育長以下自信満々、石原体制への翼賛ぶりは聴きしに勝っていた。やがて、「ここでタケハナ副知事がご登壇されます」と聞くに及んで、本当に逃げ出したくなった。事大主義・権威主義を引きずったまま、掲げられた「心の東京革命」も進められているのかと疑った。「君が代」を歌わず、起立しなかったからということでの処分も、連なる実態の一端だろうと思った。都知事は「強制していない」と公言していたが、命令は強制ではないということか。

質問の時間もない。だから文句あるまい、と言われそうだが、一方的な言いっ放しで「連絡」し、「お願い」の名で当然従うことを求めている。従うか従わないか、卒業式や入学式には、それを監視する者が配されていたと聞く。恐ろしいことが始まっているというのが実感だ。戦争中の「臨検」「特高」を思い合わせたと言ったら、あまりな誇張・歪曲ということになるのだろうか。感激し、拍手を惜しまなかった先生方に聞きたかった。どこかの国の人々に似たことをしているとは思わないか。十五年戦争準備期の諸統制に、教育界や宗教界が最も弱かったという歴史をご存じなのだろうか、と------。

NPO東久留米フラワーネットワークの皆さんがパンジーを植えてくれた。何ともきれいな駅前通りを見て、あらためて、世話をし、参加してこられた方々に、深く頭を垂れる。多くご高齢の、そして中学生諸君を含めての、まさに純粋な心に発する無償の行為である。ここには「男の純情」を超えた男女協働の実質が、求める「愛の古巣」が、しっかりと根付き始めている。花を賞で、まちを愛する、その優しく美しい心遣りを、一所懸命咲いている可憐な花が、訴え、伝えてくれている。

「こころのふるさと」と歌いつがれてきた「都の西北」に、いまそんな心は生きているのだろうか。全国の校友に支えられて今日を得ている大学が、利用する以外にどれだけ校友に報いているのかとはよく聞くことだが、本当に「大学のため」に尽くしているのは誰なのか。将来へ向けてのてだては当然として、教育・研究の府としての質実さからは遠く、肥大化の弊に疎くなってはいまいか。憂えつつ、せめて東久留米稲門会が、小さくとも、真に「大学のため」の心を、力を、と思う。

グルメよし、ゴルフよし、山歩き、吟行、講演会等々々、会は、善意に明るく童心に甦り、名利

を超えた立派な集まりになっている。だからこそ、さらに叡智を寄せ合って、後進や、大きく育って貰いたい地域の子どもたちのための、心の故郷づくりに向かえたらと、いま、「男の純情」は夢見るのである。

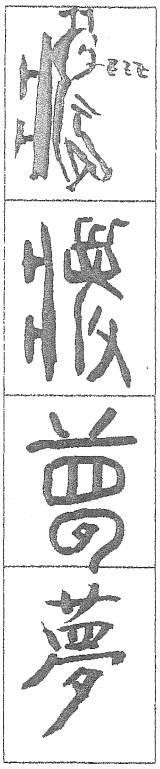
会員の声

今号より会員北野直衛さんの「漢字と私」を隋時掲載します。氏は広く幕末俳壇に活躍した俳人北野五律（宇竹庵）の末裔にあたり、幼少の頃から先祖五律に関心を寄せ永年研究を続けてきているが、このほど「俳人五律」を著した。研究が古文書さらに漢字に及び、現在“漢の本源的な由来/意味について執筆途上にある。既に数十の漢字について纏め上げているが、初回の今回は“夢”を紹介します。（編集局）

＜漢字と私＞

北野直衛（３９年･文）

「夢」－ 会意文字～莧と夕とに従う。莧は媚蠱などの呪術を行う巫女の祈る形。巫女の操る呪は、夜(夕)の睡眠中に夢魔となってその心を乱すもので、夢はその呪霊のなす術とされた。



この字は寝ているときに見る夢であることが、「」の表現で分かる。「」はベッドの形である。夢にはもう一つ、将来に対する希望などを思う夢がある。芭蕉の辞世の句は、死の４日前に詠まれたと伝えられている。いわゆる「病中吟」である。

旅に病んで夢は枯野を駆け巡る　　芭蕉

「夢」の文字から最初に頭に浮かんだのはこの句であった。寛永２１（１６４４）年に伊賀国上野赤坂町に生まれ、１９歳ころ籐堂家に召抱えられ台所用人の勤務をしたり、３０歳過ぎには４年間ほど下水道や、河の浚渫の仕事に関わったりしながら俳句でも頭角を表し、江戸でも知られる存在になっていく。その後３５歳頃には宗匠立机。以来「笈の小文」、「更科紀行」、「幻住庵の記」、「奥の細道」と、多くの旅を経て俳人として登りつめていくのである。芭蕉「七部集」の刊行の事も気にかかる。そんな芭蕉が死の寸前に枯野を駆けめぐっていた夢とは一体何であったのであろうか。振り返れば５１年間の人生が、夢幻の如くであったと、人生の短さを嘆いているのであろうか。それとも俳人としてもっと大きな夢を抱いていたのであろうか。人生が短い事は分かっていても、死を前にすると仏教的な諦観にも包まれていくのであろう。これは、限りある命を生きていかねばならない人間の宿命なのかもしれない。人偏に夢と書いて「儚（はかない）」と読む。しかし、「人生は短し、されど芸術は長し」の言葉通り、芭蕉の俳句は没後三百年以上経っても多くの俳句を愛する人々に感動を与え続けているのである。

趣味悠遊 ― 会員作品紹介

獅子盆水―酒注白磁
（高さ１３ｃｍ、容量２合）
三田　三

俳画 ― 桜
大久保　泰司

東稲広報室

○平成１７年度新入・再入会員　（平成１７年４月３０日現在・敬称略・五十音順）

氏　名	住　所	電　話	卒年・学部
浅野　雅司	野火止２－２３－４	７５－２１９０	S29･理工
小牧　宏至	南沢３－１２－１２	７５－８７８０	H 8･政経
柴田　義雄	氷川台２－２０－１３	７１－０３９５	S30･理工
田口日出夫	学園町１－１－９－３０２	７２－０７２３	S33・教育
千葉　弘(再)	所沢市星の宮２－３－１５	０４２－９２３－８０７９	S38･理工
仲　美智子	滝山７－１２－１５	５８－１２２５	H14･人科
中道　幸雄	所沢市下富1303－2	０４２－９４２－８９３３	S29･商
西田　浩一	学園町１－５－２	５８－２４６８	S38･理工
宮坂　要助	滝山１－６－１４	７３－５９５３	S17･旧商
宮本　啓子	学園町２－６－１６	２５－３３８４	H12･文

1303-27

＊１７年度当会会費未納の方々は、５月３１日までにお振込み下さるようお願い致します。

○早稲田大学校友会では、会費納入促進キャンペーンを行っています。各位のご協力をお願いいたします。

［編集後記］○当稲門会も悠々一昔を過ぎた。集まり散じて人が変わるのは止むを得ないとしても、ふっとその変容に一抹の寂しさを覚えることがある。○平成の大合併で慣れ親しんだ故郷の名前が消えた。ことの善悪は兎も角、幼少時代を過ごした故郷が損なわれ、一段と遠のいた感じを覚えるのはお歳のせいであろうか。○早稲田に対する、故郷に対する思いは多様だが、正しくきちんと歴史に学び、先祖・先達の知恵や体験を評価し受け継いでいって欲しいとは思う。○風香る５月、故郷の野山は鮮やかな新緑で、変わらず美しく彩られているに違いない。